

## シグマ研究委員会核データ専門部会

### 軽，中重核評価ワーキンググループ会合議事録

日時 昭和49年12月4日(水) 13:30~17:30

場所 原研本部第3会議室

出席者 松延，真木，山越，八谷，中挾，中島，五十嵐

#### I. 測定データの収集状況について，各担当者から報告があった。

Ni(中挾)；1965年以降の文献を調べ $\sigma_{tot}$ ， $\sigma_{n,p}$ などのデータを集めているが，未だ不十分である。近日中に東海研に行ってデータ収集をやるつもりである。

Na(真木)；データ収集は未だ十分でないが，1970年以降のデータの中に先日SPLINTでプロットしたデータがかなりある。現在は $\sigma_{tot}$ だけを見ている。共鳴パラメータが与えられているのは2 MeV以下であるが，断面積には数MeVまで構造が見られる。データ整理として共鳴パラメータを与えるか断面積を与えるかが問題になると考えている。

Fe, Ta(山越)；Feについては $\sigma_{tot}$ ， $\sigma_{cap}$ ， $\sigma_{el}$ ， $\sigma_{n,p}$ ， $\sigma_{n,\alpha}$ ，共鳴パラメータのデータを集め， $\sigma_{tot}$ などについて計算値と比較を行った。Taについては不十分であるが， $\sigma_{tot}$ ， $\sigma_{el}$ ， $\sigma_{cap}$ などはデータが多い。

O(八谷)； $\sigma_{tot}$ ， $\sigma_{el}$ のデータはほとんど集めた。1970年以降を対象にしたが，測定値間の合い方は良くあまり問題はない。

#### II. Fe についての計算に関し，測定値を見る限り，測定値の平均化で解決するような簡単な構造ではないことが指摘された。評価値を求める際，測定区間をしぼって曲線を引き，それを読み取る方がよいのではないかとの意見が出た。

全般的には未だデータ収集の段階であり、収集したデータの整理を行うのが先決である。それには測定条件などが明確に分るような表を作って、測定ごとにまとめて行く必要がある。この整理は50年3月を期限として行くことが確認された。評価の結果が出そろうのは51年3月と予定して、その間に、出来た評価結果を順々にJENDL-1用に出して行くこととする。

エネルギー区間は2200 m/sec 値を含めて15.0 MeVまでとし、20.0 MeVまで出しても良いとする。又、データとしては $\sigma_{tot}$ に有意の寄与をするものはすべて含む。

III. Cr, Niは isotope が多いので全体で90%位の abundance になる程度の isotope を対象にし、残りは次期に回してはどうかとの意見があり、了承された。

Ta については、山越氏が Fe を担当していて負担が大きいため、時期をずらすか、担当を代えるかについて検討することにした。

収集したデータは NESTOR に入れ、SPLINTを活用することとし、各担当者が時期を考えて作業を行うこととした。

IV. グループの会合はメンバーの要望により開くこととし、定期的会合は開かない。